

配水施設等更新計画の見直しを



新井賢次



上下水道課長

詳細設計時点で検討する

質問 現在、上下水道の水源として9カ所の深井戸がある。配水施設等更新調査業務委託の結果によると、今後、マンガンや鉄分が多いとして第1、第4、第6水源を補助水源として位置づけているが、水質検査によると第11水源が水質基準に一番適合していない。特に鉄色度、濁度は突出して悪く、ろ過設備に対する負荷も大きい。第1、第11水源を補助水源にすべきだと考えるが。

答弁 上下水道課長 ポンプで汲み上げられる量等も勘案して計画を立てているが、再度確認して決定する。

質問 配水施設等更新計画において、平成29年度数値を根拠にしているが、今後、給水人口の減少、節水機器の進歩、環境意識の高まり等により、確実に使用水量は減る。根拠となる計画水量を見直すべきだ。

答弁 上下水道課長 配水池を築造する際には、その時点での給水量を計算し、再度詳細設計をする。

質問 計画ではステンレス鋼製配水池の新設として約16億円が計上されている。中央浄水場土木関連工事の総額は約34億円であり、タンクひとつで47%を占める。非常に高額だ。ステンレス製にした根拠は何か。耐震構造的にも保守点検、バックアップ機能等の面からも、コンクリート製で十分可能だ。金額的にも大幅にダウンできる。最終的には水道料金にも反映されることから、コンクリート製でよいのではないか。

新しい更新計画が過大な設備にならないようにすべきだ。



過大な設備投資とならない更新計画を

答弁 上下水道課長 ステンレス製は軽量であり基礎工事が安いこと、メンテナンス性にメリットがあることが主な理由だが、詳細設計時点でもろろ検討して決めたい。

質問 おいしい水についての取り組みは。

答弁 町長 残留塩素濃度が高すぎるとカルキ臭の原因になる。残留塩素濃度を下げることが可能か調査検討を行っている。

こんな質問もしています
・移住・定住促進対策の進捗状況について

IC周辺産業団地の今後の予定は



備前島久仁子



町長

まずは市街化区域編入を目指す



道の駅北側に広がる産業団地予定地

質問 スマートインター北側の20ヘクタールを産業団地に造成する計画は、地権者の70%が協力的であり、20%が条件によるとの回答であったが、一番の問題は土地の価格とかわれる。いろいろ高いハードルはあるが、町の税収増と雇用につなげるべきだ。

答弁 町長 まずは2年後に市街化区域への編入を行い、その後、用地買収、産業団地造成に取りかかりたい。

ふるさと納税アップへ返礼品数の増加を

質問 ふるさと納税制度は、ゆかりのある地域を応援するために始まったが、今や豪華な返礼品を目的に寄附する自治体を選ぶ人が多い。平成29年度では、町への寄附は2600万円だが、町外への寄附金額は4770万円となっている。

答弁 町長 町へ寄附してもらうため、返礼品の種類を増やす必要があるが、開発には時間がかかるので、今ある施設を活用し、海洋センターやゴルフ場の利用券、あるいは「ぐんまちゃん家」で使える商品券を加えたい。

答弁 町長 返礼品を増やす努力はしているが、金券や地場産でないものは対象外となるので、思うように増えていない。しかし、今年度は前年度対比50%増となる4000万円の寄附を見込んでいる。今後も返礼品開発に取り組みたい。

下水道整備済み区域内の早期接続へ対策を

質問 当町の下水道整備状況は平成29年度末で79%だが、すべての地域に整備されるのは何年後か。また、下水道が整備済みだが未接続の世帯が8%ほどある。合併浄化槽の汚泥処理には年間5000万円もの費用がかかっているのに、水質保全のためにも、速やかに下水道に接続してもらおうよう対策を取るべきではないか。

答弁 上下水道課長 全体の整備にはおおよそ10年以上かかると考えている。また、未接続世帯を減らすことは、健全な下水道事業の運営についても重要なことであるから、広報などでPRを行い、下水道を使用してもらえよう努めたい。

こんな質問もしています
・使われなくなった農業用水路の管理について